

メイプル TOPICS

参考文献のご提供はお断りしておりますのでご了承下さい。

薬本来の効能として期待している効果以外の作用を、副作用と言います。副作用には軽症のものから生命に危険をおよぼす重篤なものまであります。**薬に副作用はつきもの**ですが、薬を服用・使用しているすべての患者様に起こるわけではなく、むしろ**副作用が出る方のほうが少数**です。ここでは、患者様自身で副作用を早期発見するための手がかりを紹介します。

服用している薬の副作用を理解する

副作用に過敏になりすぎて、服用中に出た症状をすべて副作用と結びつけるのはあまり良いことではありませんが、前もって「自分が飲んでいる薬には、こういう副作用が出ることがある」ということを知っていると大変参考になります。薬をもらった時に、副作用につながる初期症状をあらかじめ聞いておきましょう。

副作用歴の記録を残す

副作用の症状が出た時は、二度と同じ経験をしないよう、お薬の手帳などに記録を残しましょう。**何という名前の薬で、どのような症状が出たかを詳しく記載し、受診の際、必ず医師に伝えましょう。**

早期発見について

薬の副作用の

気になる症状が現れたら副作用を疑う

比較的良好に見られる副作用に
 ・湿疹・かゆみ・毛が抜ける
 ・胃が重い・下痢をする
 ・動悸がする・脈が速くなる
 ・手が震える・冷や汗が出る
 ・咳が出る・熱が出る
 といった症状があります。その多くは本人の自覚によるものです。もし気になる症状が出たら副作用を疑ってみることも必要です。特に、**新しい薬を飲み始めた時や、薬の量が変わった時には注意が必要です。**また、乳幼児や高齢者などのうち、自分で体調の変化を表現できない方は、付き添いの方が十分な注意を払いましょう。**副作用が出たからといって自分の判断で薬の服用を止めずに、医師や薬剤師に連絡し、適切な処置を確認しましょう。**

定期検査を受ける

慢性疾患で長期にわたって薬を服用する場合は、定期的を受診し、指示通り検査を受けましょう。

副作用の中には、自覚症状が全くなくても検査値に異常が出る場合があります。検査では、病気の状態を調べてだけでなく、同時に副作用のチェックを行っていることが多くあります。

参考 メディックブック(金原出版)



食物アレルギーとは、ある特定の食物を飲んだり食べたりすることによって引き起こされるアレルギー反応です。大人にもある反応ですが、消化機能が未発達である乳幼児に多く見られます。

症状

最も多いのは、じんましんや湿疹などの皮膚症状です。他に下痢・嘔吐・鼻水・くしゃみなどさまざまです。そのなかでも特に症状が強く、意識がもうろうとしたり、呼吸困難になったりする状態をアナフィラキシーショックと言ひ、大変危険な状態です。

原因食物

特に発症数の多い食物



★この5品目は、加工食品に**必ずアレルギー表示がされる**ようになりました。

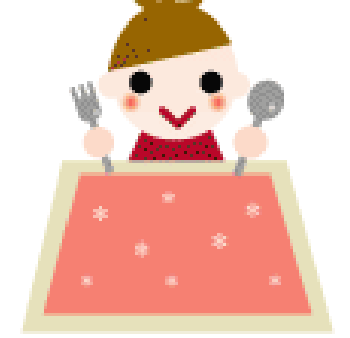
★加工食品に**表示が勧められているもの**

あわび	いか	いくら	えび
かに	さけ	さば	牛肉
鶏肉	豚肉	大豆	くるみ
まつたけ	やまいも	オレンジ	もも
りんご	バナナ	キウイフルーツ	ゼラチン

(20品目)

※食物アレルギーのある方は、加工食品を利用する場合、表示を確認し、食べても大丈夫なものを選び、アレルギー症状が起こるのを防ぐことができます。ただし、店頭で計り売りされている惣菜や、容器包装の小さいものは表示されないので気をつけなければなりません。

対策は?



原因となる食物を特定し、その食物を食べないことです。しかし、誤った自己判断で食品の制限をすると、栄養面での不足を起こしてしまう場合もあります。特に乳幼児期にアレルギーが多く見られるたまたご、乳製品などは、血液や体をつくる大切な栄養です。間違った食事制限は栄養状態を悪くしてしまいます。医師の診察を受け、適切な治療・指導を受けるようにしましょう。